

「土砂災害について」

高知県 土佐女子中学校 1年 なかむら あやの
中村 綾乃

今年の夏休みに入り、今日までに何度も、集中豪雨（ゲリラ豪雨）のニュースを聞いたことでしょう。数えきれないほど聞きました。

私も夏休みに入ってすぐのころ、関東の方に旅行に行った時にゲリラ豪雨を体験しました。今までの人生の中で経験した雨とは違って、傘をさしても何の役にもたらず、一瞬で身体中びしょ濡れで、雷はすぐ近くで鳴っていておどろきを感じました。

私たちは雨の降り始めの時だったけれど、足元はすでに水の流れがありました。

テレビで見ていた時は、「すごいね」と、家族で話しているだけだったけれど、実際に経験してみたら、集中豪雨（ゲリラ豪雨）のニュースは、関心を持ってきくようになったと同時にあの時のような経験はあまりしたくないと思いました。

その日は山口県や島根県で集中豪雨があった日です。

父が山口県出身で、父の伯父さんや叔母さんが、阿東地区という所に住んでいて、私も小さい時に父の叔母さんの家のりんご園に遊びに行ったこともあるので大丈夫なのか心配しました。

父は大いそぎで、連絡をして被害の状況を確認していました。幸いにも、古い家は、床上浸水したけど、特に大きな被害もないと確認がとれて、家族みんなで一安心をしました。

その時に母が山口県の地理がわからないからと言って父に質問をしていました。

祖父母の住んでいる山口市内から島根県の方へ行くには山の方へ進んで行くのに、どうしてあの辺が水害や、土砂災害になるんだろうと。

父は地図がなかったので、道路を基準として

「 周辺からのむこうは日本海側に流れて行くからだよ。」と教えてくれました。

去年は九州北部豪雨、今年は山口・島根豪雨、東北の豪雨と毎年のように7月や8月のニュースになって、その後、必ず土砂が大量に流れ、土砂災害のニュースを見ていて、夏の出来事の話題になっているので、集中豪雨と土砂災害は切っても切れない関係だとわかりました。

高知でも、このような災害は、なかったのかなと思い調べてみたら、平成10年に集中豪雨があったことがわかりました。私は、まだ生まれていなかった時のことなので、母に聞いてみました。

とにかくバケツをひっくり返したような雨で庭なのか水路なのかわからないように、あっという間になって、母の住んでいた所の近くの小川は、山から石が流れてくる音がわかる程で、家の前の畑は山から流れて来た土砂でおおわれていたそうです。

そんな話をしている時に、今はネットで調べたり、ニュースを見たりするから、昔から言い伝えを、両親や祖父母からきくことはないけれど、母は、よく憶えてはいないから、間違っているかもしれないが、

「 どのような土の所は土砂災害が起きやすい。」とか

「昔、あの地域では、山津波があったと言い伝えられている。」

祖父から聞いたことあるよと、教えてくれました。

母の言った山津波がわからず、聞き返してみると、「母も言われた時はよくわからなかったけど、今思うと、土石流のことだと思うよ。平成10年の集中豪雨の時にその地域の家に土砂が流れて来ていた家が何軒もあったよ。」と教えてくれました。

また母は、「今、住んでいる場所は、昔どんな災害が、あったのか知らないし、地域改良が進んでいるので、今後どのような災害が起きるかわからない。母が子供の時のような言い伝えてあげることはない。」と言っていました。

土砂災害は、集中豪雨とは切っても切れない関係があることはわかったけれど、土砂災害に対する防止対策が私には、想像が付きません。天気予報を聞いていても、ゲリラ豪雨が起きるかもしれないと予報があり、なぜ、このような豪雨になるのかも伝えてくれたりしているけど、ゲリラ豪雨を起こらないようにする予防方法は伝えられていないし、今の私たちではどうにもならないので、これから少しずつ勉強していきたいと思います。